

今回は啓発的経験として、インターンシップを通して実際の仕事を体験してみる事が大切であることを観てきました。今回は、どのように職業を選び決定するかというキャリアの意思決定に焦点を当て

ナビゲーター

と考えてみたいと思います。私たちは青年期を迎え、学業を終えるころになると、社会に出るため職業選択を行います。自分がどのようなことが得意で好きなことは何か、あるいは世の中になどどのような仕事があり、何を選択すればよ

人生100年時代に向けたキャリア開発

その考え方と方法

◆16◆

いのか大いに迷うのではないのでしょうか。

ジェラットという学者は職業選択の決定は、「最終決定」の前に繰り返される「試験的決定」とその後決められる最終的決定の2つがあり、いずれも目的・目標の吟味や、情報の収集にフィードバックされるサイクルを構成するといふ「連続的意思決定のモデル」を示しています(図)。

選択の際にたどる過程について、①結果を予測する「予

意思決定

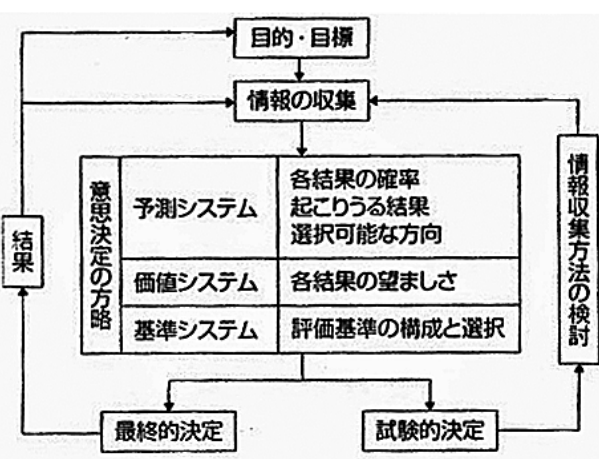
測システム」、②予測結果がどのくらい望ましいかを検討する「価値システム」、③その選択を目的や目標に照らして評価し、決定基準に合ったものを採択する「基準システム」の3つを挙げています。わかりやすく説明すれば、意思決定は複数の就職候補先から期待する結果を想定して、どの様な基準で決定し、譲れない絶対条件は何で、譲歩できるところはどこなのかを決めることと言えるでしょう。

さて、実際に職業選択を行う場面では、自分が望む職業を決定するのはなかなか難しいことと思われまふ。私の体験では、決定を行う前に自分の目的や目標が決められず、情報収集が十分行われないうまま短期間で職業決定をするため、最終決定はしたものの不安を抱える方が多いと感じられます。そのような不安を少しでも解消するため、キャリアカウンセラーとしては、自分の興

自己決定と自己責任

味や関心を知り、同時に知っておくべき必要最小限の職業

情報が得られる「OHBYカールド」(労働政策研究・研修機構)13回目的の「自己理解」で説明(活)を活用し、慎重に検討できるような情報提供を心掛けています。



連続的意思決定モデル (ジェラット, 1962)

【日本産業力 ウンセラー協会 会員・シニア産業力ウンセラー・キャリアコンサルタント 野倉 武明】
(火曜日掲載)

